

令和5年度 音楽科授業改善推進プラン

大田区立大森東小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・発達段階に応じて、音符や楽譜などの基礎的・基本的な知識を習得させることができた。
- ・鑑賞の学習では、低学年は感じたことを言葉で言い表したり、高学年は感じたことを音楽的な理由とともにワークシートに記入したりすることができた。

(2) 課題

- ・曲を聴いて感じた曲想を、器楽演奏や歌唱で表現することに課題がある。
- ・鍵盤ハーモニカやリコーダーなどの基礎的な奏法を全員に定着させることに課題がある。

2 授業の分析

① 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・身体表現を楽しみながら行い、4分音符と8分音符を手拍子で打つ力を身に付けることができた。 ・鍵盤ハーモニカの基礎的な奏法を全員に定着させることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・即興表現やリズムづくりでは、自分の思いや意図をもって作品をつくることができた。 ・歌唱の学習では、曲を聴いて感じたことを強弱や速度を変化させて表現することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい曲や新しい奏法への意欲が高く、楽しんで学習に取り組む姿が見られた。 ・友達と発表を聴き合ったり、感じたことを伝え合ったりするなど、協力しながら学習に取り組むことができる児童が少ない。

② 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な楽譜の読み方や、リズム感を身に付けることができた。 ・リコーダーの新しい音をきれいな音色で出す方法や、サミング等の奏法の定着を図ることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞の学習では、強弱や音色の違いに気づき、タブレットにまとめることができた。 ・歌唱の学習では、曲を聴いて感じたことを強弱や速度を変化させて表現することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい曲や新しい奏法への意欲が高く、すすんで学習に取り組む姿が見られた。 ・友達と話し合いながら、よりよい音楽をつくろうとすすんで協力し合うことが難しい。

③ 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・合奏の学習では、パートの役割を考え、音量を変えたり、タイミングを揃えたりしながら演奏することができた。 ・歌唱の学習では、頭声的な発声方法を身に付けたり、他声部の音を聴きながら歌ったりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オーケストラの曲を聴いて曲想と要素結び付けて聴き取り、タブレットにまとめることができた。 ・器楽の学習では、曲想に合った表現にするために、強弱や速度を変化させて演奏することができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と話し合いながら、主体的に音楽づくりの学習に取り組むことができた。 ・課題のある部分の練習を繰り返すなど、こだわりをもって学習に取り組む児童が少ない。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカの学習では、児童の特性や発達段階を踏まえた指導法を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から「強い音」「弱い音」を聴いたり演奏したりする機会を設け、表現を変化する楽しさを感じさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1つの曲でも、児童によって多様な感じ方がある。そのため、鑑賞の学習の際、児童同士で感じたことを交流させる機会を設け、伝え合うことの楽しさを味わわせる。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーの学習では、運指表を用いたり、正しい音色を聴く機会を増やしたりするなど、繰り返し真似をさせながら定着を図る。 ・児童の特性によって、ミニ運指表を用意したり、ひらがな表記の楽譜を作成したりするなど、個別の対応をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常時活動で行う「呼吸体操」を通して息の使い方を指導したり、口や体の動きを真似させたりするなど、曲の感じを表すために必要な表現方法を指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの機会を増やす。 ・互いの意見を認め合うことができるよう、教師が積極的に良い意見を価値付ける。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・歌唱の学習では、常時活動で行う「呼吸体操」や発声練習を通して息の使い方や頭声的な声の出し方を指導する。・リコーダーの学習では、運指表を用いたり、正しい音色を聴く機会を増やしたりするなど、繰り返し真似をさせながら定着を図る。	<ul style="list-style-type: none">・器楽の学習の際、感じた曲想によって強弱や速度を全体で変化させる活動を頻繁に行う。	<ul style="list-style-type: none">・CD や動画を使ってプロの音楽家が演奏している「良い音楽」に触れる機会を頻繁に取り入れる。その上で、より質の高い音楽活動を目指すために、何が必要なかを考えさせ、その後の練習につなげる。